

古く銘書大全

心形像銘形

七

113
769
7

後

國宗

伯著中曰名

○

角ニ小肉アリ 狩並ニ遠候アリ 子政字ハニホ打之と云

大正十五年二月
花房仙太郎氏寄

後

國宗

○

角ニ小肉

備前國長能佐人國宗作

角ニ小肉

一

備前土口是佐助主我

九助義是打之修也云

建武二年八月日

元極三年二月日

新

一 備前吉延佐助茂

角ニ小肉

貞和三年十月

助重

角ニ小肉アリ 尻横下 土月ノ巻くら 入るやちのくを けいすのき成りて

一文字

助重作。

角ニ小肉アリ 尻白

三月あくら

延房作。

株九枝ノ平 株角ニ小肉ありもなき

延房作。

株九枝の平 山形ノ尻あり也

五文字

守恒

角ニ小肉あり 尻白

○ 守吉

○ 守盛

角ニ小肉あり 尻白

○ 是助

株角ニ小肉あり

足助色く文こ

角ニ小肉あり

保加。

角ニ小肉あり 尻横下

切

保加。

角ニ小肉あり 尻白

守未

角ニ小肉あり 尻白

五文字

五文字

五文字

角ノ砂目

備前長船守末

その形像九板の平山形

戸住。左兵衛尉源吉氏

一備前。山石。在地頭源吉氏

棟角ニノ砂目

元弘元年土月日中一文字の印ノ吉氏ハ列

光助

助吉子

切

光助

助吉子

切

一

角ノ小肉ノ砂目

中一文字

角ノ小肉ノ砂目

丁永三年六月日

國縄

角ノ小肉ノ砂目

角

備前凶包平

角ノ小肉ノ砂目

長則

永仁六年六月日

角ノ砂目

角ノ砂目

一系内通

長則

角ノ砂目

後ノ様

長則。

角ノ砂虫蓋

折電

國吉

角ノ小肉ノ砂虫蓋

絨中物

國吉

角ノ砂虫蓋

文保二ノ三月日

脩申國一乃毒。座住左兵米尉恒次

角ノ砂虫蓋

訖次。

角ノ砂虫蓋

助次。

角

切

恒次。

角ノ砂虫蓋

角ノ砂虫蓋

次忠。

恒次。

角ノ砂虫蓋

一。垣次。

恒清。

角ノ砂虫蓋

絨中一恒子

角

角

後

○助決

後

○自次

角ノ砂中

是ハ後ノ所ニありと云

角ノ砂中

倫中国住長次作

角

○次忠

子年より

角ノ肉わり砂中

○家恒

○行次

倫中国住家次作應安七年八月日

角ノ砂中

○康次

角ノ砂中

康安元年と云

○次吉

切

○常遠

角ノ砂中

角ノ小肉と砂中

角ノ小肉と砂中

倫中国住士次作

倫中国住大隅權介士自次

角

建武二年十月日

元弘二年よりありと云

角ニテ新日

目次

切

角小肉ニ

真景

角ニテ新出

後

備中國住人次吉

貞和二年二月日

延文二年八月日

●●●
中國住人次吉作

角ニテ新出

角ニテ新横下

備中國住人次吉作

曆應三年十月日

八月廿五日

内書

恒次

○ ○ ○

角ニテ新出

角ニテ肉あり新横下号を以て

新出

吉次

新出

角ニテ新出

秀次

角ニテ新出

新出

秀次

角ニテ肉あり新横下

貞次上

角

切

一名は書目録の下の真源と近江の形像は角之肉なりと云ふは近江之様
 たりと云ふは近江の形像は角之肉なりと云ふは近江之様
 りと云ふは近江の形像は角之肉なりと云ふは近江之様

脩中國住次吉作

文和五年三月日

角之肉なり近江之様

脩中國住次吉作

角之肉なり

嘉應三年正月日

朝次

角之肉なり近江之様

永泰三年二月日

脩中國住人在兵部尉直次作

切

角之肉なり

一説は書目録の下の真源と近江の形像は角之肉なりと云ふは近江之様

延次

切

茂次

角

角之肉なり近江之様

角之肉なり

切

女次

角之肉なり

守恒

切

角ヲ新日

○備州住親次

角ヲ新日 貞和二年二月日

○○○

△坂

切

重次○

角ヲ新日

角

宗遠○

角ヲ新日

角ヲ新日

○俊次

切

三河物

棟角ニ小肉アリ新日

吉 棟角ニ小肉アリ新日

三河○住○國經

角ヲ小肉アリ新日

角 〓 ○空次

宿次院

○茶王寺吉十

切

奥列物 付出羽

奥列物

生佛

杉板は三條新日入所実多

杉板の字様又小肉アリ新日下

○奥列舞草丈長

切

此の角よりめんをとりて
角ニ小肉ありしをくしつ様下

陸奥

○月山

角ニこの板同様

本をいふの
やうな形切

○生佛

角ニ肉ありし日

角

此様下よりくしつは親二代のこしは親
はかたのこしはあつてくしつは月山といふ
親の角は平河安をくしつといふなり

出羽親

○寶具車

株角ニ小肉ありし日

角

出羽親父

○寶具

角

株角ニ小肉ありし日

高平の十月廿二日

出羽親

鬼王丸

角ニ小肉ありし日

月山といふなり父月山といふ

株角ニ小肉ありし日

○寶具

角

此の角より平河の角より人々殊うき様也
三全津の角より人々殊うき様也

越前

一〇越州敦賀住威重作

角

角ニ肉ありし日

角ニ肉ありし日

親 守弘

牛代親

牛代親

木林弘

角ニ肉ありし日

角ニ小肉ありし日

木林弘

角

○越州守重

国字子

越前国住上井村来宗光

角ニ肉ありし日

高平の十月廿二日

角

同

武前田住元兵衛尉來宗光

角ノ内わり移月

角ノ移月

丁亥年十一月廿七日

加賀物

角ノ移月

布

角

行光

角ノ移月

行光

加州藤原家改

行光

棟角ノ移月

角ノ移月

○賀川住人原真景

丁亥年八月月

角ノ移月

真景子

○賀川王景光

祖父

甘藤嶋友重

棟角ノ移月

角ノ移月

○藤嶋

藤嶋友重

角ノ移月

角ノ内わり移月

越中物

下室

字

友次

岩佐
安信子

信長

角ノ内わり移月

角

角

角

父

○義廣

松倉氏子

○義弘

角ノ戸内

角ノ肉内ノ戸内

そと八郎も子

○江

江ハ城中松倉氏ノ義弘ノ子也松倉氏ノ義弘ノ子也

角ノ戸内

吉廣

角ノ戸内下小肉内

○則重

角

○重因

越中国○掃負郡御月住佐作則重

角ノ戸内

越中国掃負郡御月住佐作則重

嘉慶二年七月日

則重

若重ノ子也

越中国掃負郡御月住佐作則重

角ノ小肉内ノ戸内

角ノ戸内

越中国

○重因

角

一〇〇

角

一佐國正信

先八郎氏子

○正信作

角ノ戸内

山形ノ子也

物持物

角ノ戸内

○友氏

中島氏

○友氏

角

一佐國正信

正信二年二月日

張新元社

○父系

河内物

四壬

反

包手作○

角ニ小肉アリ 砂目

包平作○

角ニ肉アリ 砂目

平泰内許定土人の内 基泰ち力

新作の内上

吉氏

日

○包平

久貝ニあり

角ニ肉

角

紀伊物

角ニ砂目

角ニ砂目

上入麻景安貝

特角 砂目

入底○安貝延作

角 祝

入賀住友令更

其

子

○仲真

角ニ小肉アリ 砂目

角ニ小肉アリ 砂目

播戸物

詔吉

○

肉あり

女頼

○

角ニノ砂目

切

志々の様也と云

角ノ砂槓又虫毒

長角國々々

定里。

江東遠

切

祖文

周防

男の松ちや^三はよりなり山と又佐房より
 物色をどり似直さう函小川色表より歌へ

清恩

忠先劍

先角

○二王正猜

忠光劍
刀銘

清
緄
○

望

棟角ニ肉アリ

角

二毛清長

棟角又亦也

孫

清經○

棟角ニノ伊勢海に云人の外有るを望み人

角又肉也讀之如入二五之允祀

角ノ摸下

○清真

○防州月忠

角

角ノ段をめん
とすも之を
越す又横す

○
清
經

防州保清春作

三代

國防地

西
也
角

此雲物

○清鑣

永則

棟角ニシテ
廬曰

永亨八年二月日

親

○吉則

角

○不則

角ノ初日

子

吉則○

角

（栢角ノノ初日五ノ日）

孫

○正則

角

栢角ノノ初日

石見物

○清則

角ノ初日

龜永正三年八月日

字澤佐

○夏細

角ノ初日

○守示

真元○

石州長濱

○佳木細

直細作

伯耆物

石列

○直細作

角ノ初日中五ノ日

小鴨佐人

國宗○

角ノ小肉五ノ日

切

切

横瀬うま

為清 ○

角ノ肉アリ 伊模下又重き

角の骨の傍に定世二人肉の 守家もえんがとくぬ 是より 脇筋を沸へり 大和力

女組

又伊模下重きと云ふ

豊後物

定秀 ○

角ノ小肉を 伊模下 下 伊模 伊模 ともちうろ 伊模

豊後國行手作

角ノ小肉を 同様のめん ともちうろ

棟角ノ伊模

豊後國行手作

角ノ小肉を 伊模

行手 ○

角ノ小肉を 伊模

角ノ小肉を 伊模

角

國迷

またたけ 細いのが とうてい 割むらう ちうてい

國迷

國迷

はなは 糸 糸 國迷 糸 糸

國迷

角ノ小肉を 伊模下

角

角

切

切

切

角

新作上

角ニ小肉アリ 淨月紀新書定案考う 背子定案考う 淨月

○曲豆○後国定慶作

奥列位をのぞ

新作上

○曲豆○後国定慶作

角

豊後国○僧定秀ニ

角ニ小肉アリ 淨月定案考う 淨月

角ニ小肉アリ 淨月

曲豆○守重太助

角

豊後国行平作

角ニ小肉あり 淨月

肥後物

肥後物

角ニ小肉アリ 淨月

○信○

○国總作○

角ニ小肉アリ 淨月

羽池仁○左衛門尉國經

角

角ニ小肉アリ 淨月

○包平○

○行吉作○

○山○包平

角ニ小肉アリ 淨月 山と云ふ字のところが八文字あり

那州 角池

○國時○

角ニ小肉アリ 淨月

六

角^ニ肉^リ瓠^ノ下

VD

来國後女始のては馬ち節と云ふ勝をいふ
十字とあらぬを

一角ニメ小肉アリ強白

角

一角ニ小肉あり

吟

吉○

瓶前記

揀角ノ驴横下又ハ角柄ノ

國

筑州住弘○茂作

角ニテ中ニ透小齒あり

實○
阿

魚ノ新書

筑州佐國方

角ノ弘志子

西華子又云宇華實阿虎云

乙亥年十月日

嘉曆○二年十一月日

實阿作

棟内わり 珍白

實阿作

角

莒州○佳源左

新作魚

○筑州住左

角ノ小肉アリ新様

康永三年十二月日
角小肉有

安吉

角ニ新様並左ノ子

左○應永十七年正月廿日

○了戒信光

切

了戒正能作

了戒

角ノ小肉アリ

了戒

了戒

角ノ肉有

入西

永仁五年

角ノ新様下

永永年中記

盛高

角ノ肉有

角

源○盛高

角

全割並新様

全割並新様

○盛高

角

全強

薩下

○西蒲

角

角ノ新様下

是よりかたうしりしをて
かゝるる定まふなり

角

角

角

角ノ小肉ヲ弔撲下

又云大凡夫妻ハ世帯とて世帯の事ハ父と
世帯ハ月費定ぬのと云ハ凡夫ハ月費定ぬのと云

角之

乙卯年二月日

角ニシテハ又ハ

角

角ノ肉アリ 砂虫等

是より下に属す

やうなふくろに

角ニ小肉わり

正和二年三月日

角ノ部

○波平近安

角

薩州住人波平女行

角ノ小肉アリ

角ノ小肉アリ

南京蔽原

○正國

つらえ

丹波

正國

角ノ小肉アリ

ふ勤

○國々

角ノ小肉アリ

着換
深更子

信國

あふり
めんま

角ノ小肉アリ

長門

倭子

紫花

与列倭國吉

長州信○女台

角ノ小肉アリ

角ノ小肉アリ

西暦十年八月日

漢文

○山蓮

角

曲豆刺○國住幸貞

丁徳一幸一月日

角

以丹付心形像因分之家傳
雖為秘書數年此涉概不寫事
此見之之乃發者也如件

長治六 三月十二日

萬治四年 三月吉日

元祿十八年正月吉日

日本橋南中通音羽町角

初倉屋喜共衛啟

早稲田大学図書館

011888002288